

サーモスタットデッキバスシャワー混合栓施工説明書

キアラ

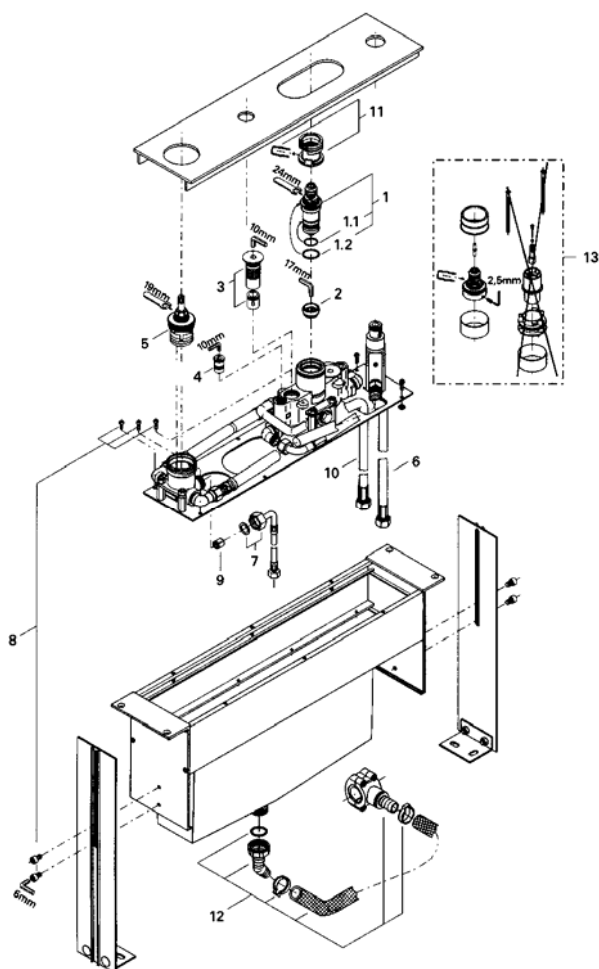
一般地用
34307

寒冷地用

- 製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
 - この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。
 - 施工完了後、試験運転を行い、異常が無いことを確認するとともに、「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- また、この説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

完成図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。



図番	名称
1	サーモスタット
1.1	調整弁リング
1.2	Oリング
2	弁座
3	ストレーナー付逆止弁
4	止水栓
5	アクアジマー
6	耐圧フレキ湯側
7	シャワ接続ホース
8	ビスセット
9	ホース逆止弁
10	耐圧フレキ水側
11	ストップリングセット
12	排水ホースセット
13	エクステンション

※カウンター穴あけ寸法は付属のテンプレートを使用して行ってください。カウンター厚 15mm 以下。

安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様ではありませんので、水抜きには工具を必要とします。

※凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、ハンドルが閉じていることを確認してください。

※漏水で、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

使用条件

● 給水、給湯圧力

◇貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.05Mpa [0.5kgf/C m²])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m²])の範囲とします。

※給水・給湯圧力はできるだけ同圧になるようにしてください。

◇ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(A+0.05Mpa [0.5kgf/C m²])～(最高圧力0.74Mpa [7.5kgf/C m²])の範囲とします。

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

※以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバーハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度5℃、吐出温度40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度設定です。

◇給水圧力が0.74Mpa [7.5kgf/C m²]を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

- 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、必ず別途止水栓をご用意ください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。
- 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設けてください。

施工前の注意

- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。
- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。
- 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。
- 寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないと使用できません。
- 配管接続部を隠ぺいしないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。
- 給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

施工手順

1. 点検スペースの確保 (図1参照)

- ①接続部分を点検できるように必ず作業に必要な空間を設けてください。
※漏水等の発見が遅れ、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

2. 給水・給湯の取出し (図1参照)

- ①給湯側が手前、給水側が奥になるよう配管の立上げを用意してください。
※止水栓の設置をお勧めします。水量の調整が可能になり、適量・適温が得られるようになります。
※壁給水は使用出来ません。接続の耐圧フレキが急激に曲がり、折れてしまいます。

3. 埋込ボックスの設置 (図2参照)

- ①保護カバーを取り外します。
- ②デッキプレートを外します。
- ③設置方法を付属の脚を使用するか、ボックスのフランジを使用するか選択します。
※固定ボルトは付属のボルト以外に、同等品を使用しても可能です。
※確実に固定されていることを確認してください。

4. 給水・給湯耐圧フレキの接続 (図2参照)

- ①手前の給湯配管に給湯用耐圧フレキをねじ込みます。
- ②奥側の給水配管に給水用耐圧フレキをねじ込みます。
※締付は、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水のなり、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。
※ホースがねじれないように接続してください。加圧した際、耐圧ホースナットを緩める原因になります。
※ホース同士の不要な接触は避けてください。外部補強層の磨耗による外傷でホース性能の劣化の可能性あります。

5. デッキプレートの用意 (図3参照)

- ①埋込ボックスより取り外したデッキプレートにタイルまたは石を載せ、付属のテンプレートを使用し、エンピツ等でけがいてください。
- ②タイルまたは石にホルソー等で、テンプレートの通りに穴をあけてください。
- ③デッキプレートに加工したタイルまたは石を、穴があうよう接着して張り合わせてください。
※石(接着剤含む)の厚みは15mm以内としてください。

図1

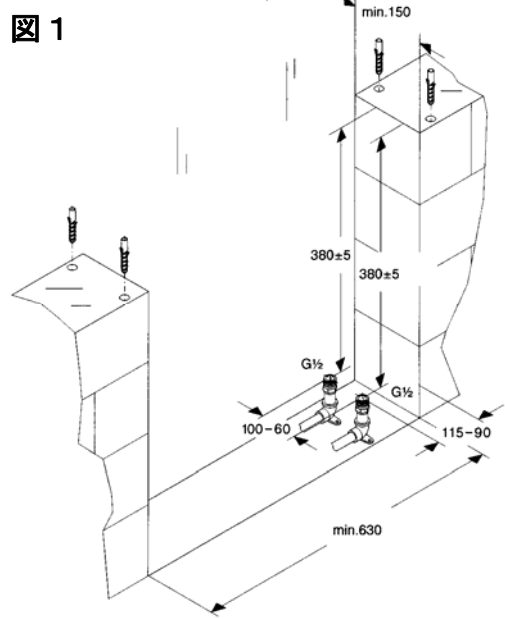


図2

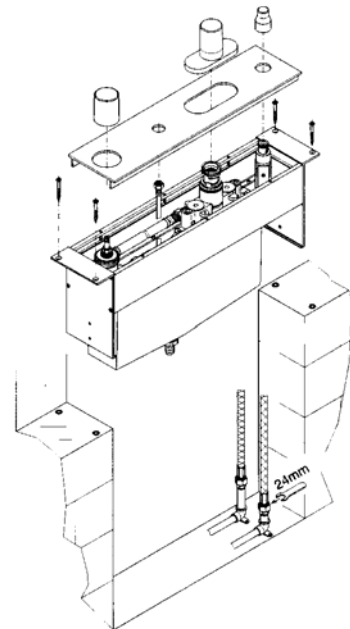
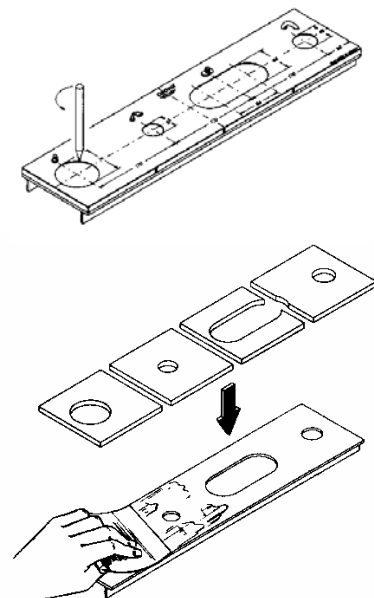


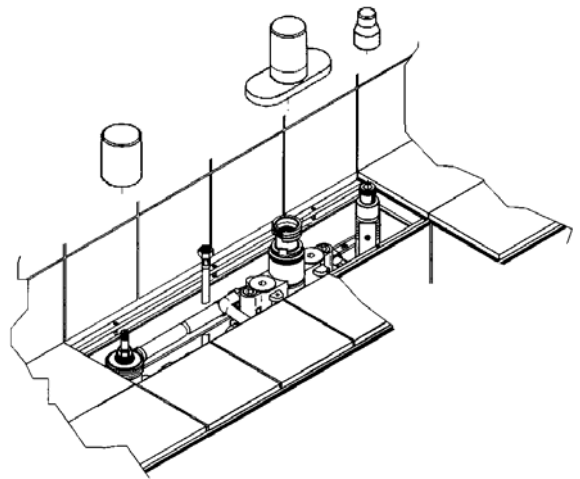
図3



6. タイル（石）の仕上げ（図4参照）

- ①保護カバーをそれぞれ戻し、差し込みます。
 - ②デッキプレートの、はめ込み分以外の部分をタイルまたは石で仕上げてください。
- ※保護カバーは上部に化粧カバーを取り付ける時には必要なくなりますが、ホコリやゴミが付着しないようにするため必要です。また、むやみに埋込ボックス内にはホコリやゴミが付着しないようにしてください。

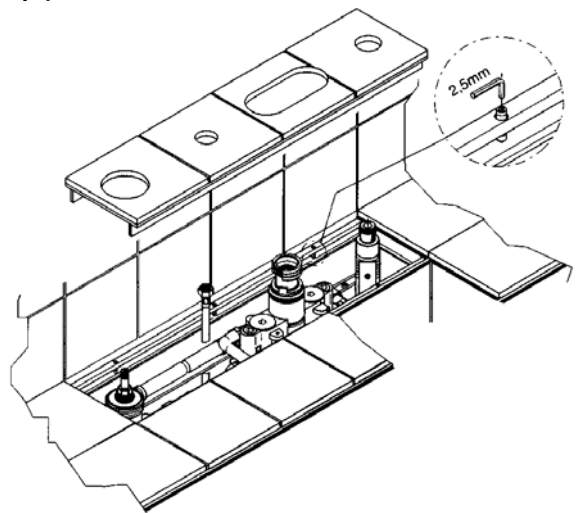
図4



7. デッキプレートの調整（図5参照）

- ①保護カバーを取り外します。
 - ②デッキプレートを仮置きして、仕上面とのズレがあるか調べます。
 - ③埋込ボックスに内蔵されている調整ボルト（6本）を2.5mm六角レンチで緩めて、デッキプレートと仕上面の位置をあわせませす。
- ※デッキプレートには化粧カバーが取り付けます。コーキング等によるシールはこの時点では使用しないでください。
- ※保護カバーは上部に化粧カバーを取り付けるまで差し込んでおいてください。

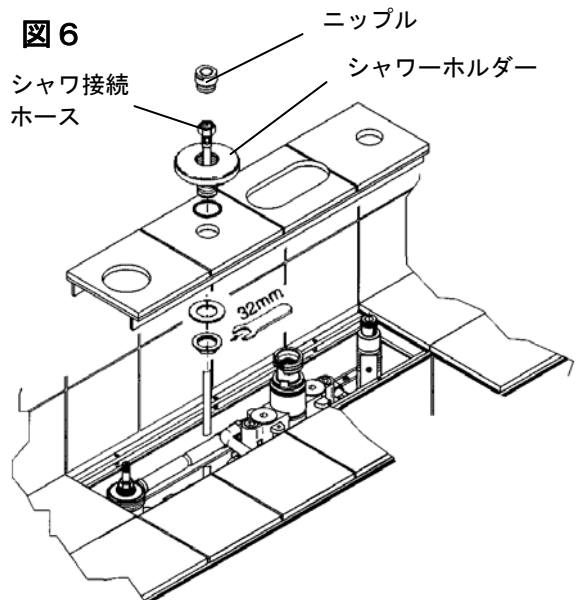
図5



8. シャワーホルダーの取り付け（図6参照）

- ①デッキプレートに化粧カバー19623のシャワーホルダーを工具（32mmスパナ）で取り付けます。
 - ②シャワーホルダーのニップルを工具（24mmスパナ）で取り外します。
 - ③埋込ボックスのシャワ接続ホースをシャワーホルダーの穴に通します。
 - ④デッキプレートは点検用の窓になりますので、仕上面の隙間をコーキング等でシールし、取り外しが可能になるようにしてください。
- ※シャワ接続ホースは埋込ボックス内部に戻らないように、テープ等で仮止めしてください。

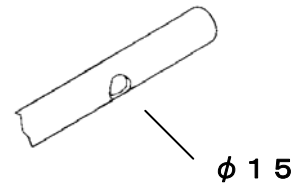
図6



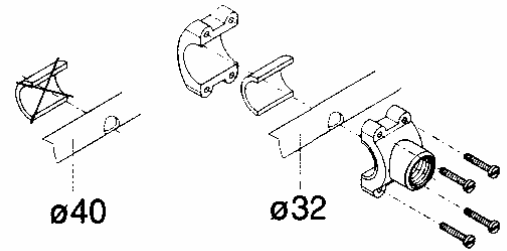
施工手順

9. 排水ホースの取り付け

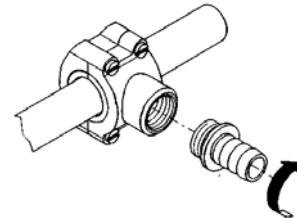
- ①排水管φ32もしくはφ40にφ15の穴をあけます。
※排水ホースは約2000mmあります。排水管のあな
あけ位置には気をつけてください。



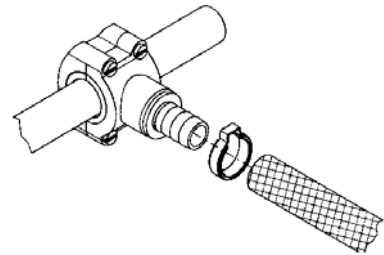
- ②排水管にあけた穴と排水ホルダーのネジ部を合わせ、
挟みます。付属のビスで完全に締め付けます。
※φ32排水管はパッキンを使用し、φ40排水管は
パッキンを取り外してください。



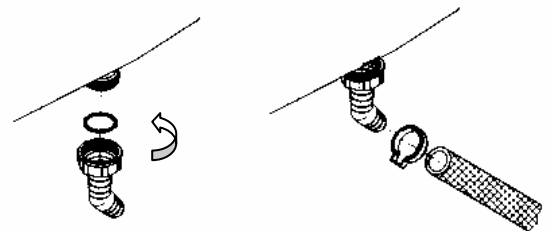
- ③排水ホルダーのネジ部に付属のホースニップルをね
じ込みます。
※最後まで完全にねじこんでください。



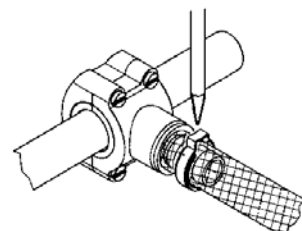
- ④付属のホースに止リングを挿入し、排水ホルダーのホ
ースニップルに差し込みます。
※最後まで完全に差し込んでください。



- ⑤本体下部の水受容器に付属のホースニップルの袋ナ
ット部をねじ込み固定します。
⑥付属のホースに止リングを挿入し、水受容器のホース
ニップルに差し込みます。
※最後まで完全に差し込んでください。



- ⑦ホースの止リングをホースニップルが位置する所で
ポンチまたはプラスドライバー等でカシメ部分を叩
きます。
※最後まで完全に叩いて、外れない事を確認してくだ
さい。



取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

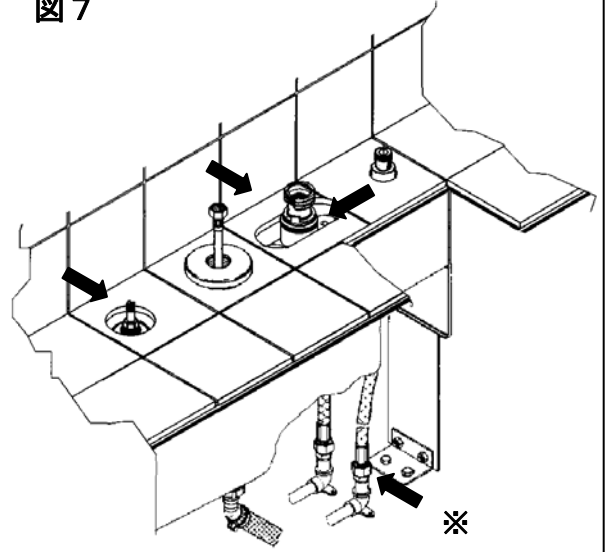
1. 接続部の水漏れ (図7参照)

吐水、止水を数回くりかえした後、図7の箇所を点検します。

- 給湯管、給水管と耐圧フレキの接続部。
- 本体と耐圧フレキの接続部。
- 温度ダイヤル接続部。
- 開閉ハンドル接続部。

※特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

図7



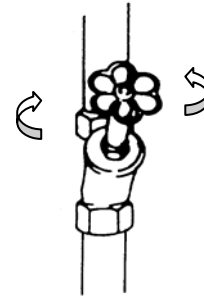
2. 水量・湯温の調節 (図8参照)

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節します。

※湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。

- 熱湯と水にしかならない。配管である。
- 熱湯か水しか出ない。サーモスタットのごみづまり。
- しばらくすると水になる。水圧が異常に高い。

図8



故障と点検

※取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

6 逆止弁
破損・ゴミかみはないか

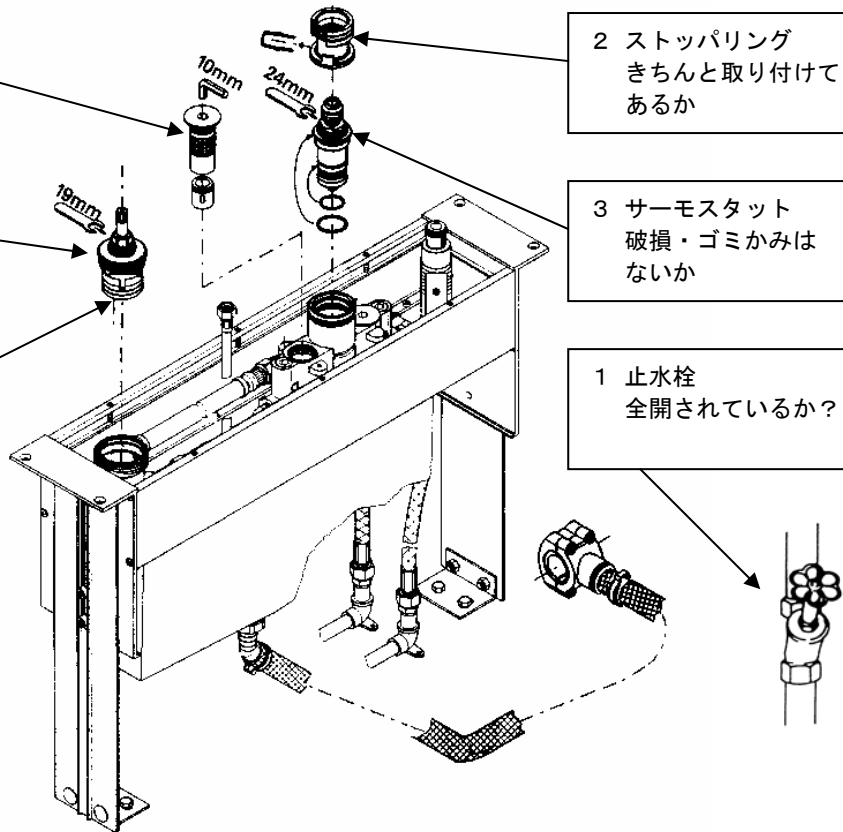
5 アクアジマー
十分に締め付けてあるか

4 パッキン
キズ・ゴミかみはないか

2 ストップリング
きちんと取り付けてあるか

3 サーモスタット
破損・ゴミかみはないか

1 止水栓
全開されているか?



現象	点検箇所
吐水量が少ない	1. 6
水が止まらない	1. 4. 5
温度不良	1. 3. 6
ハンドルがガタつく	2
シャワーに切り替わらない	4. 5